

「下咽頭癌に対する咽頭喉頭頸部食道摘出術後の再建に関する 多施設共同研究」へご協力をお願い

—平成7年1月1日～平成18年12月31日までに当院にて下咽頭癌切除の際に腸管や皮弁
の移植による再建術を受けられた方へ—

研究機関名 北海道大学医学部 形成外科
責任研究者 北海道大学医学部 形成外科
講師 古川洋志

1. 研究の意義と目的

頭頸部癌（口の中やのどの癌）を切除されると、口やノドの中に大きな欠損が生じます。この欠損に対する再建手術として、自分の腸や皮膚を移植（移植した腸や皮膚を栄養する血管は首の血管と縫い合わせられます）して欠損部を塞ぐ手術方法が一般的になっています。しかし、細かい手術の方法などの選択については、術者の経験や好みによる部分が多くを占めています。また、頭頸部癌は胃癌などに比べると数が少ないため、大規模な調査がほとんど行われていません。

そこで、多施設共同で研究を行うことで、頭頸部癌の再建手術について日本で初めての大規模な調査を行うことといたしました。手術の細かい方法や、術後の結果を解析することで、より質の高い標準的な再建術式の確立を目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

当院で平成7年1月1日～平成18年12月31日までに下咽頭癌切除の際に腸管や皮弁の移植による再建術を受けられた患者さま

2) 研究期間：

平成25年12月（予定）から平成27年5月31日まで

3) 研究方法：

対象となる患者さまの診療情報をもとに、手術までの経過や術式、術後経過について分析し、より良い再建術式の確立を目指します。具体的には、術後の合併症や機能に影響を与えると思われる因子（年齢、術前の放射線治療・抗癌剤治療、手術時間、腸管の縫い方など）について統計学的に分析します。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、個人情報には削除し匿名化します。個人情報が漏れることが無いよう、プライバシー保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、既往歴、治療歴
- ・ 再建の術式、手術時間、出血量など
- ・ 術後経過、術後合併症の有無など

データは研究代表機関である岡山大学形成外科に送られ、そこで解析が行われます。

5) 情報の保護：

調査情報は岡山大学病院形成外科内で厳重に取り扱います。電子情報はパスワードで保護されたコンピュータに保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連学会や論文で発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。

<問い合わせ・連絡先>

北海道大学医学部 形成外科

氏名：古川洋志

電話：011-716-1161 内線 6978 ファックス：011-706-6978